



野洲市コミュニティバス路線網再編(案)



目次

コミュニティバス路線網再編（案）の概要	1
1. 現在運行中のコミュニティバスの概要	2
2. コミュニティバスに関する財政状況	3
3. 現状のコミュニティバスの利用実態	4
4. コミュニティバスに関する課題	13
5. コミュニティバス路線網再編の考え方	14
6. 路線網再編案	16
7. 再編案の運行本数の評価	23
8. 再編案の所要時間の評価	24

コミュニティバス路線網再編(案)の概要

【コミュニティバスの課題】

市資料、利用者アンケート調査・自治会アンケート調査より

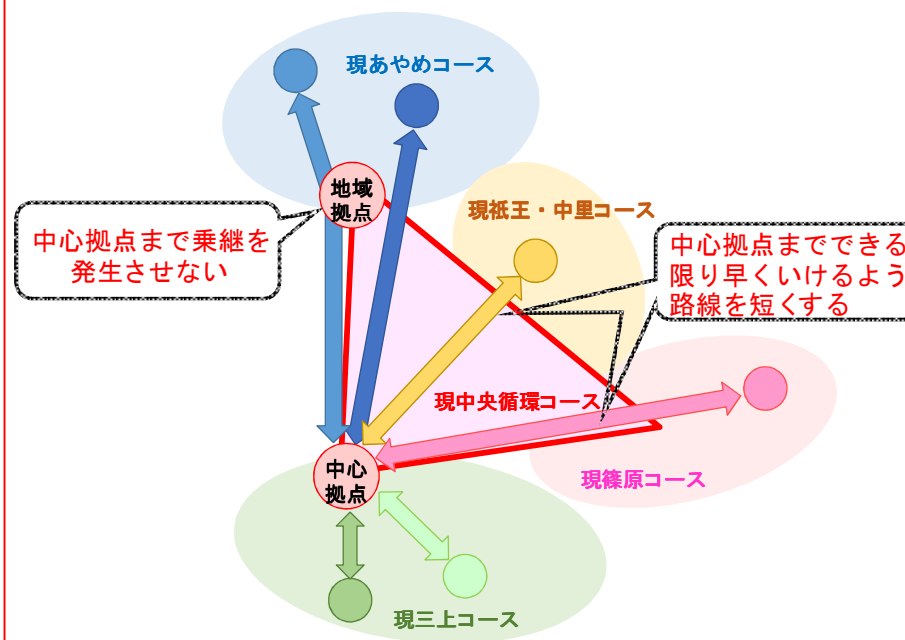
- 誰もが利用しやすく、野洲地域を中心に
よく利用される施設等へアクセス可能な
路線網への再編
- 利用者を増やすため、市民ニーズに応じた
サービス提供
- 効率的な運行を実現する路線網再編
- 限られた財源の中で運行

【コミュニティバス路線網再編の考え方】

- 新規2路線の追加による効果的な運行
- 市民の不満度の高い「運行本数」サービスの
向上を図る
- よく利用される施設に行きやすくする
- 路線延長を短くし、所要時間の短縮を図る
- 効率的な運行によって利用率の向上を図る
- 立地適正化計画の「目指すべき都市の骨格構造」を支援する

【コミュニティバス路線網再編(案)】

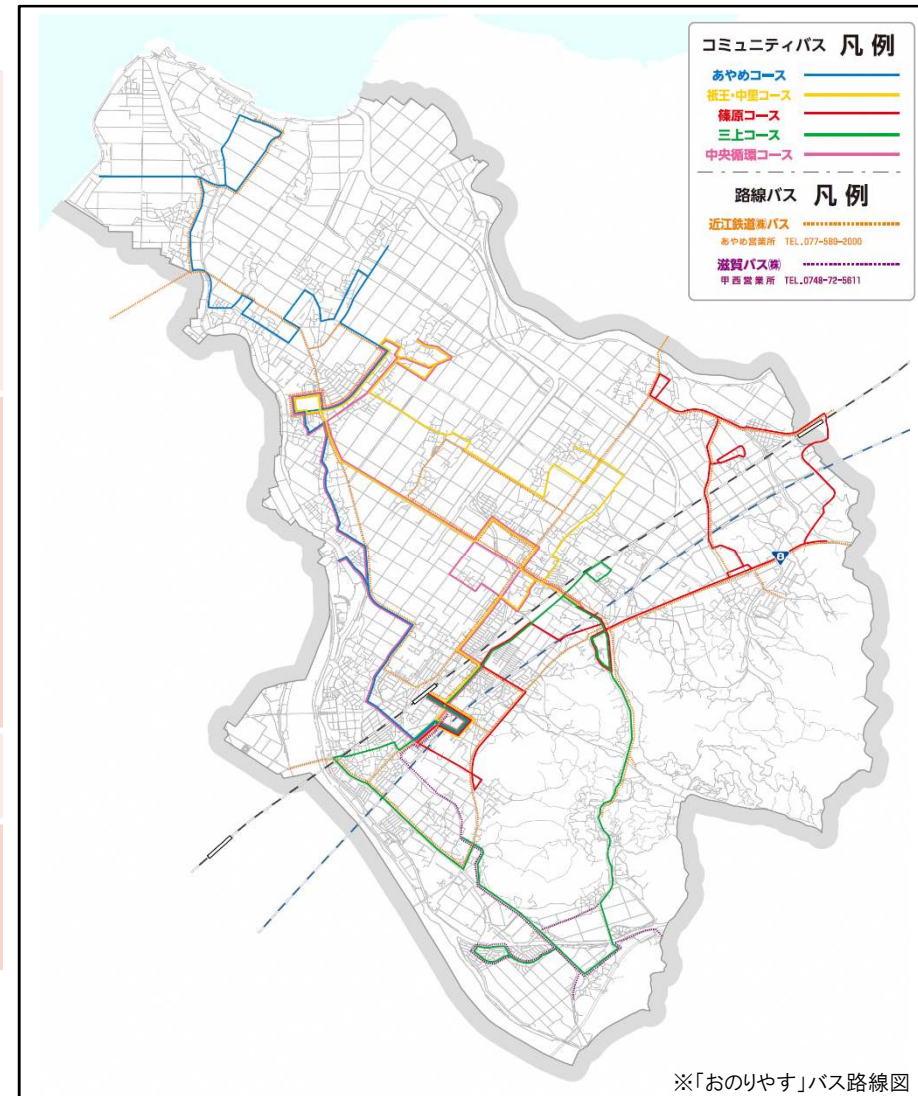
- 効率化を図るとともに、新規2路線を追加する
- 路線を短くして所要時間の短縮を図る
- 運行本数の増加
- 中心部まで乗継なしで稼働可能



1.現在運行中のコミュニティバスの概要

運賃は定額制で、全5コース運行しています。
全体的に運行距離が長く、コースの重複箇所があります。

運賃	<ul style="list-style-type: none"> ・大人(中学生以上) 200円 ・小人(小学生) 100円 ・70歳以上 100円 ・障がい者およびその介護者 中学生以上 100円、小学生 50円
運行路線	<ul style="list-style-type: none"> ①あやめコース ②祇王中里コース ③篠原コース 全5コース ④三上コース ⑤中央循環コース
運行頻度	週6日、3~5便/日
使用車両	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤ター(乗車定員12人)・・・4台 ・小型バス (乗車定員31人)・・・1台



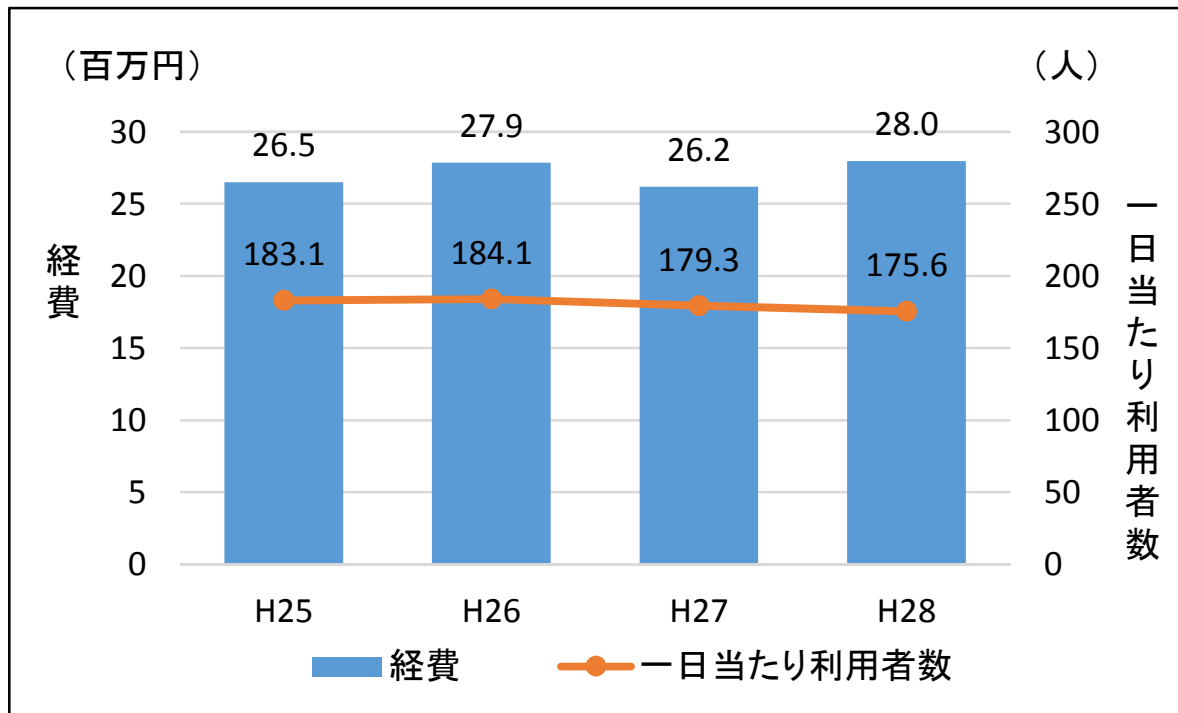
2.コミュニティバスに関する財政状況

■コミュニティバスの市の負担額と利用者数の状況

コミュニティバスの利用者が減少傾向にある一方、市の負担額は増加しています。

1便あたりの平均乗車人数	約5.3人
市負担額	約2,800万円
1人当たりのコスト	約550円

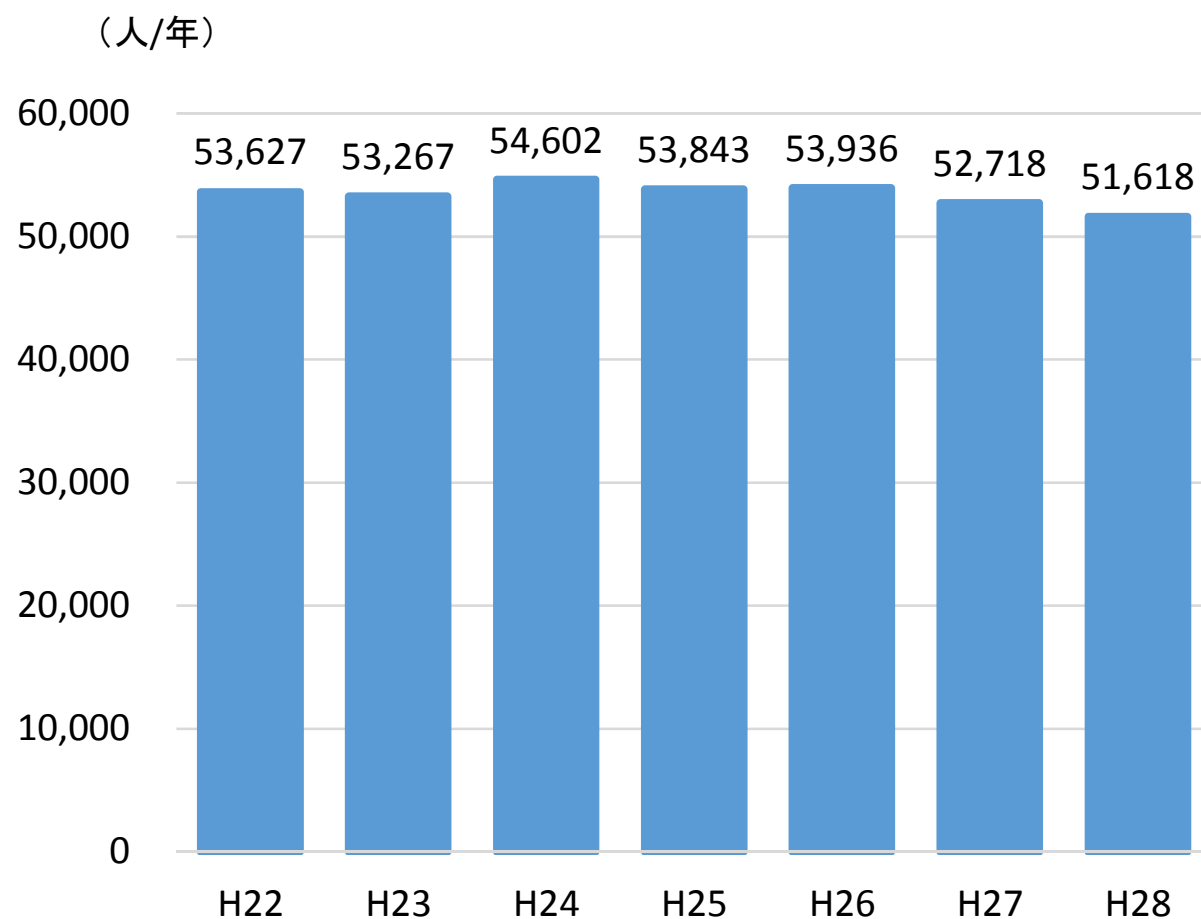
※H29.3.31時点



3.現状のコミュニティバスの利用実態

■コミュニティバス利用者数の推移

コミュニティバスの利用者数は減少傾向にあります。

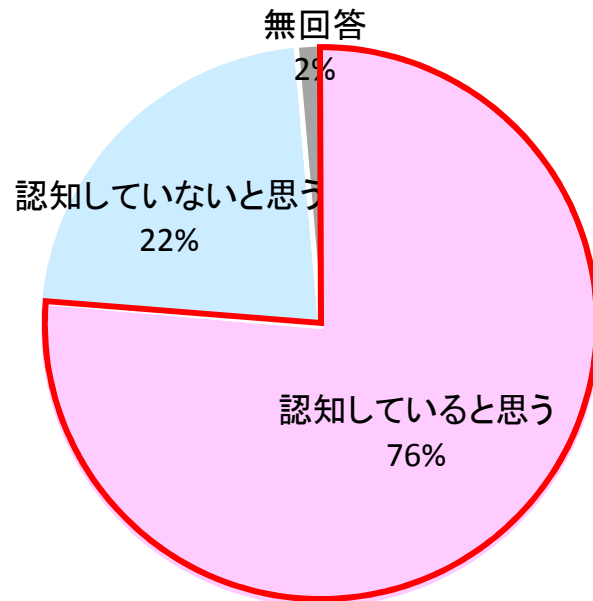


3.現状のコミュニティバスの利用実態

■コミュニティバスの認知状況

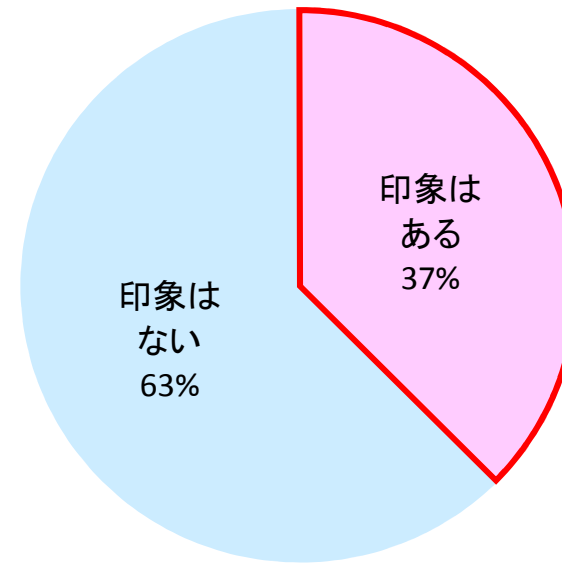
コミュニティバスの認知度に関する印象では「認知していると思う」という回答が76%であるのに対し、コミュニティバスの利用に関する印象は「印象はある」という回答が37%となっており、少ない状況です。

【認知度に関する印象】



出典：平成29年自治会アンケート調査

【利用に関する印象】



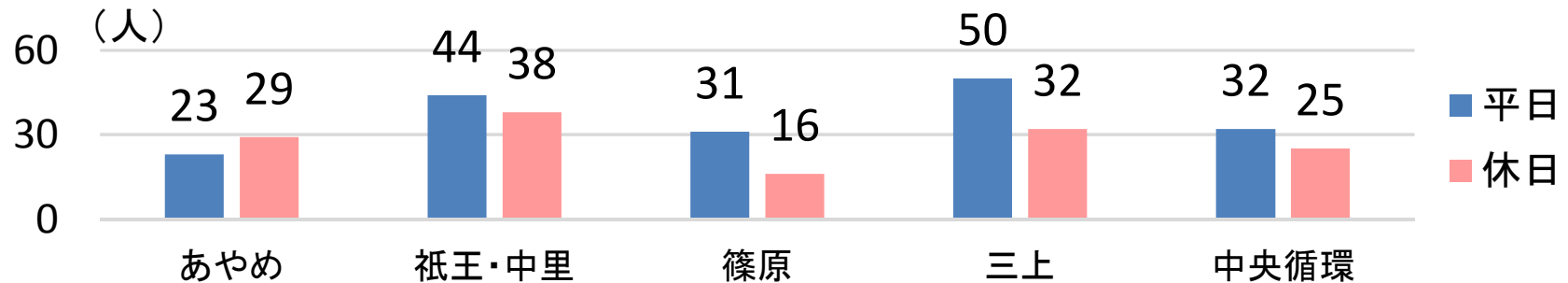
出典：平成29年自治会アンケート調査

3.現状のコミュニティバスの利用実態

■コミュニティバスの利用傾向

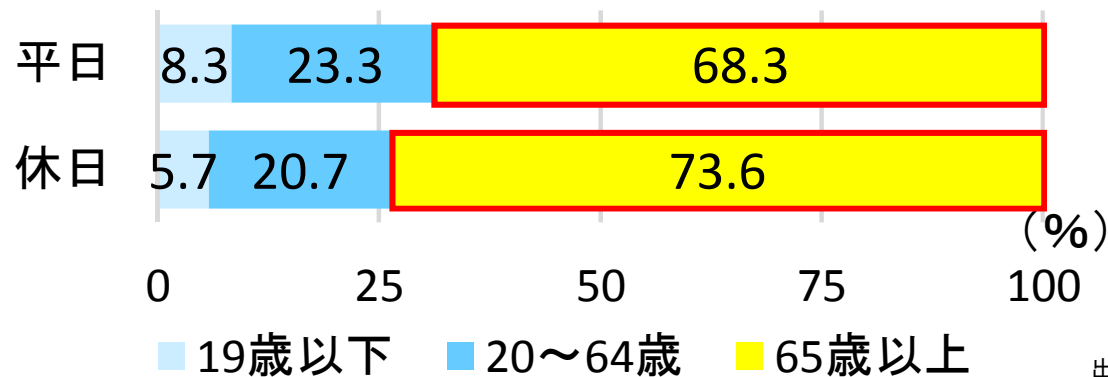
利用傾向として、利用者数が最も多いのは平日が三上コース、休日が祇王・中里コース、最も少ないのは平日があやめコース、休日が篠原コースです。年齢別で見ると、65歳以上の高齢者が大半を占めています。

【コース別利用者数】



出典：平成29年コミュニティバス利用実態調査

【利用者の年齢構成】



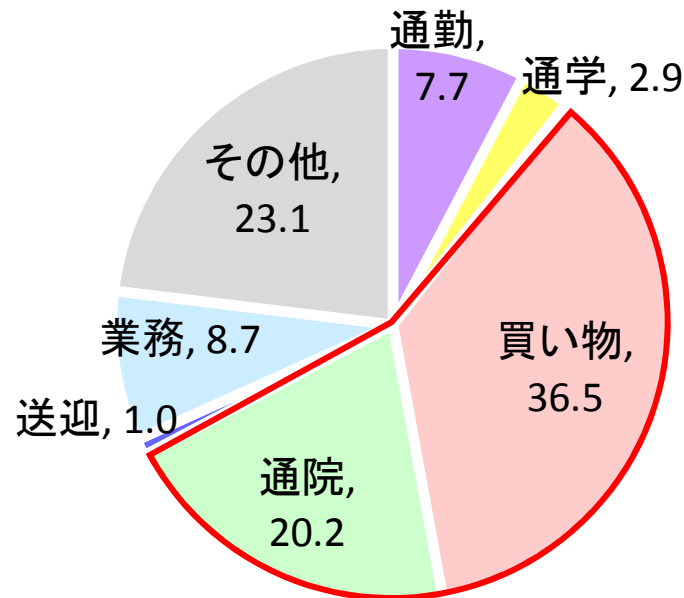
出典：平成29年コミュニティバス利用実態調査

3.現状のコミュニティバスの利用実態

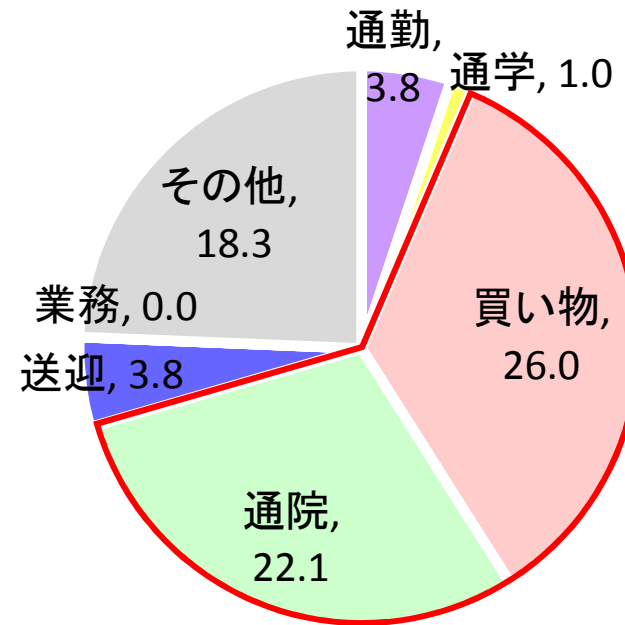
■コミュニティバスを利用した移動の目的

コミュニティバスを利用する際の移動目的は、平日も休日も「買い物」と「通院」が大半を占めています。

【平日に利用している人の移動目的】



【休日に利用している人の移動目的】



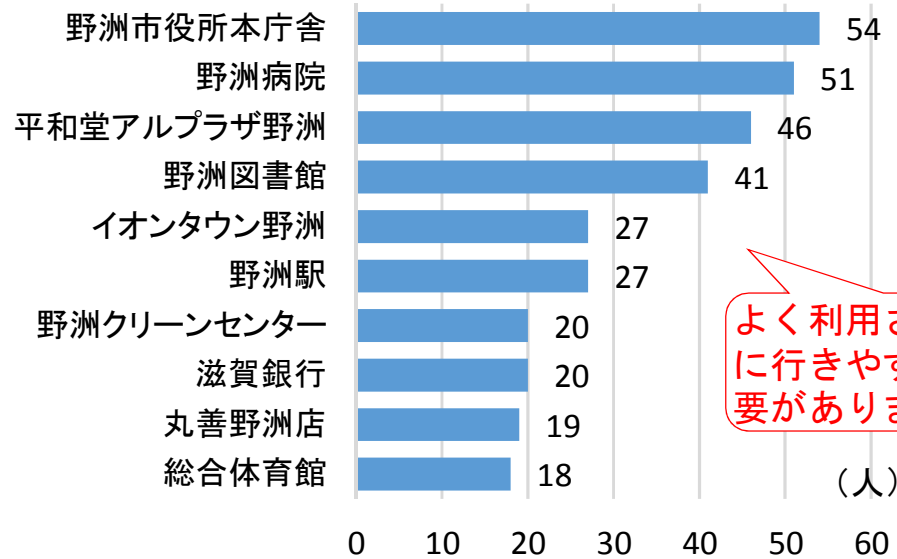
3.現状のコミュニティバスの利用実態

■市内における市民の移動実態

市民がよく利用する施設は、野洲市役所本庁舎が最も多く、全体的に野洲地域に集積しています。

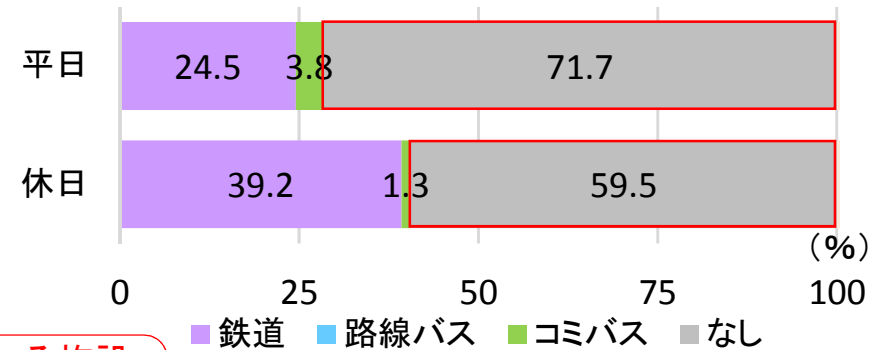
コミュニティバスとの乗継の状況は平日も休日も乗り継ぐ人が少なく、乗り継ぎがある場合は鉄道が最も多くなっています。

【市民がよく利用する施設】



よく利用される施設
に行きやすくする
必要があります。

【コミュニティバスとの乗継の有無】



出典：平成29年コミュニティバス利用実態調査

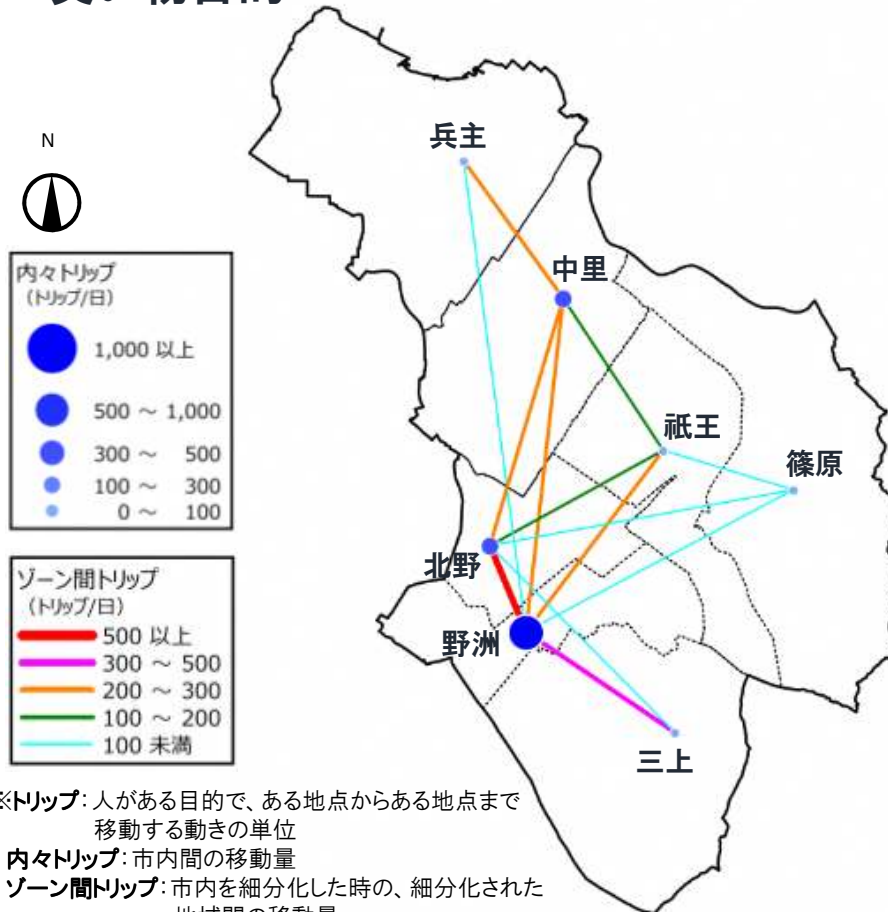
出典：平成29年自治会アンケート調査

3.現状のコミュニティバスの利用実態

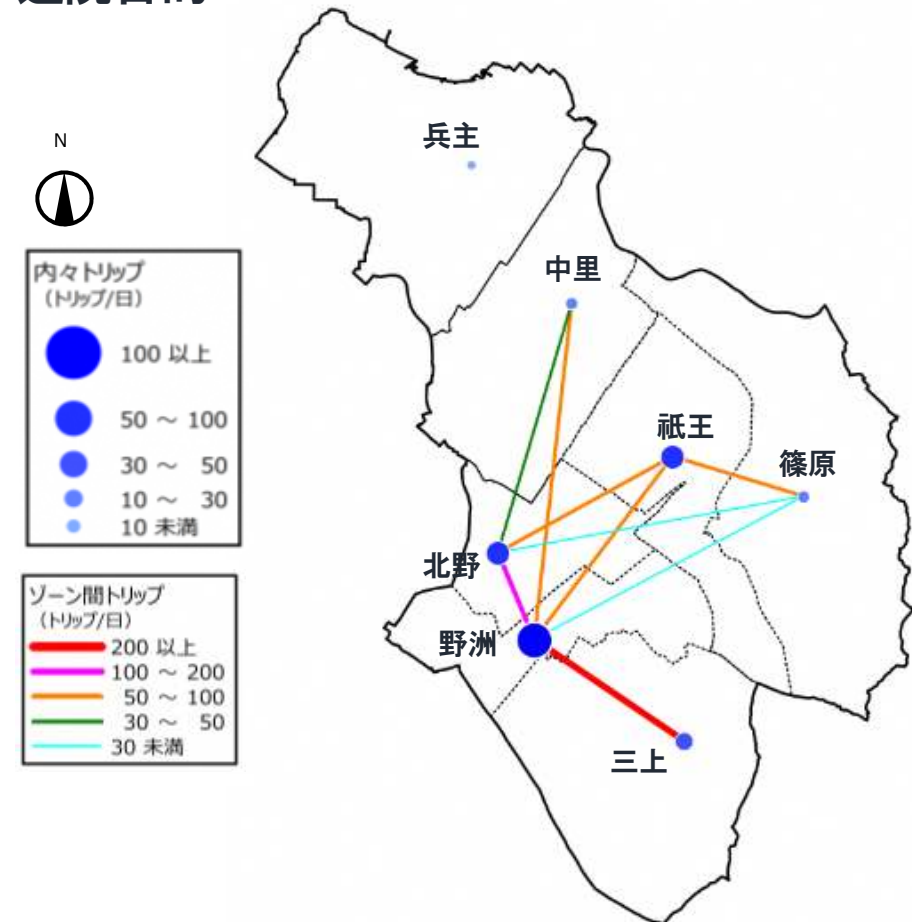
■市内における市民の移動実態(全交通手段)

「買い物」と「通院」目的の市内の移動を見ると、「買い物」は野洲-北野地域間、「通院」は野洲-三上地域間が多くなっています。

・買い物目的



・通院目的



※トリップ: 人がある目的で、ある地点からある地点まで移動する動きの単位

内々トリップ: 市内間の移動量

ゾーン間トリップ: 市内を細分化した時の、細分化された地域間の移動量

(今回は「兵主、中里、祇王、篠原、北野、野洲、三上」の7地域)

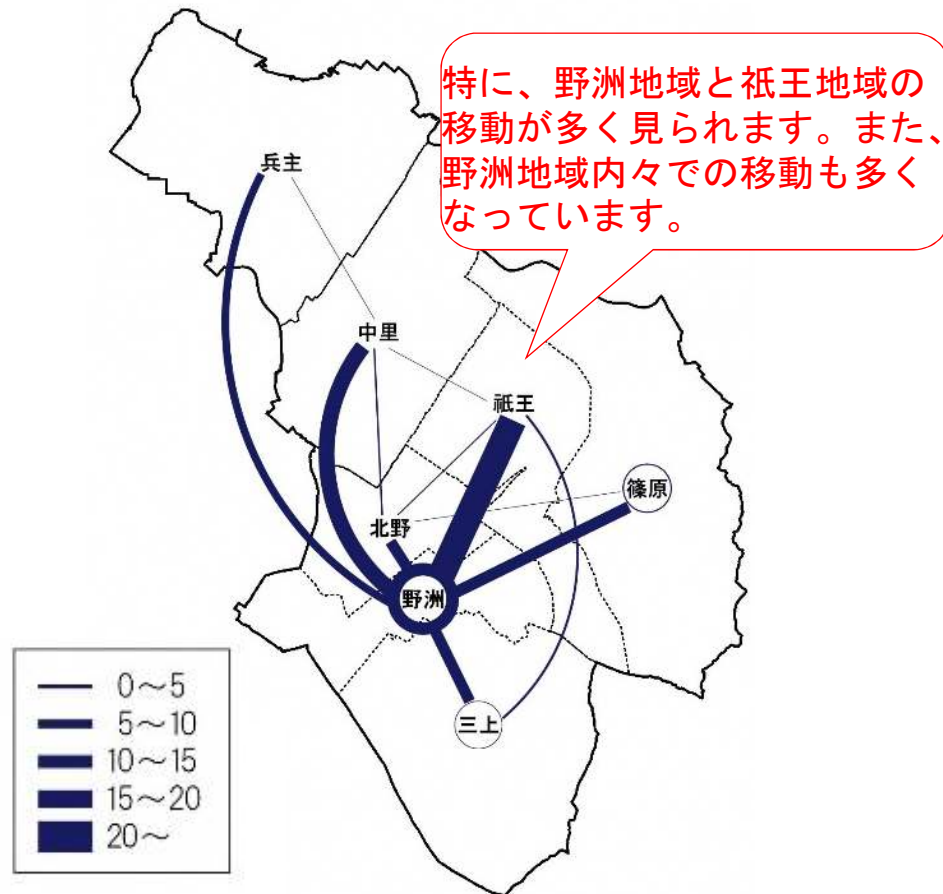
出典: 平成22年度近畿圏パーソントリップ調査

3.現状のコミュニティバスの利用実態

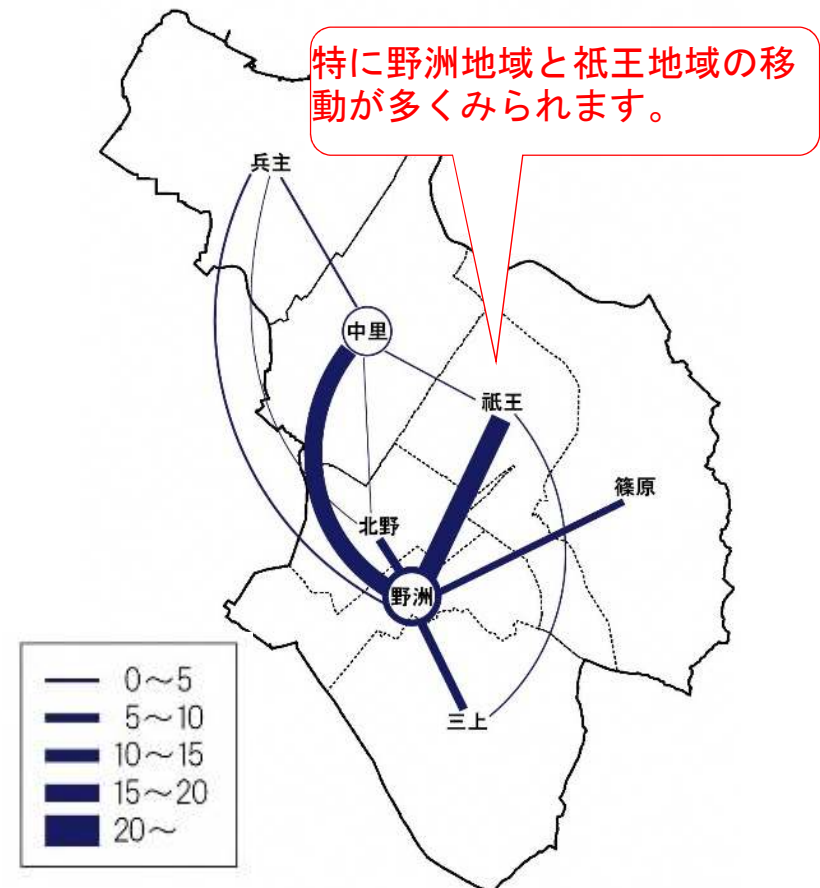
■市内における市民の移動実態(コミュニティバス利用者)

平日と休日のコミュニティバス利用者の移動状況を見ると、野洲地域を中心に祇王・中里方面間との移動が多くなっています。

・平日



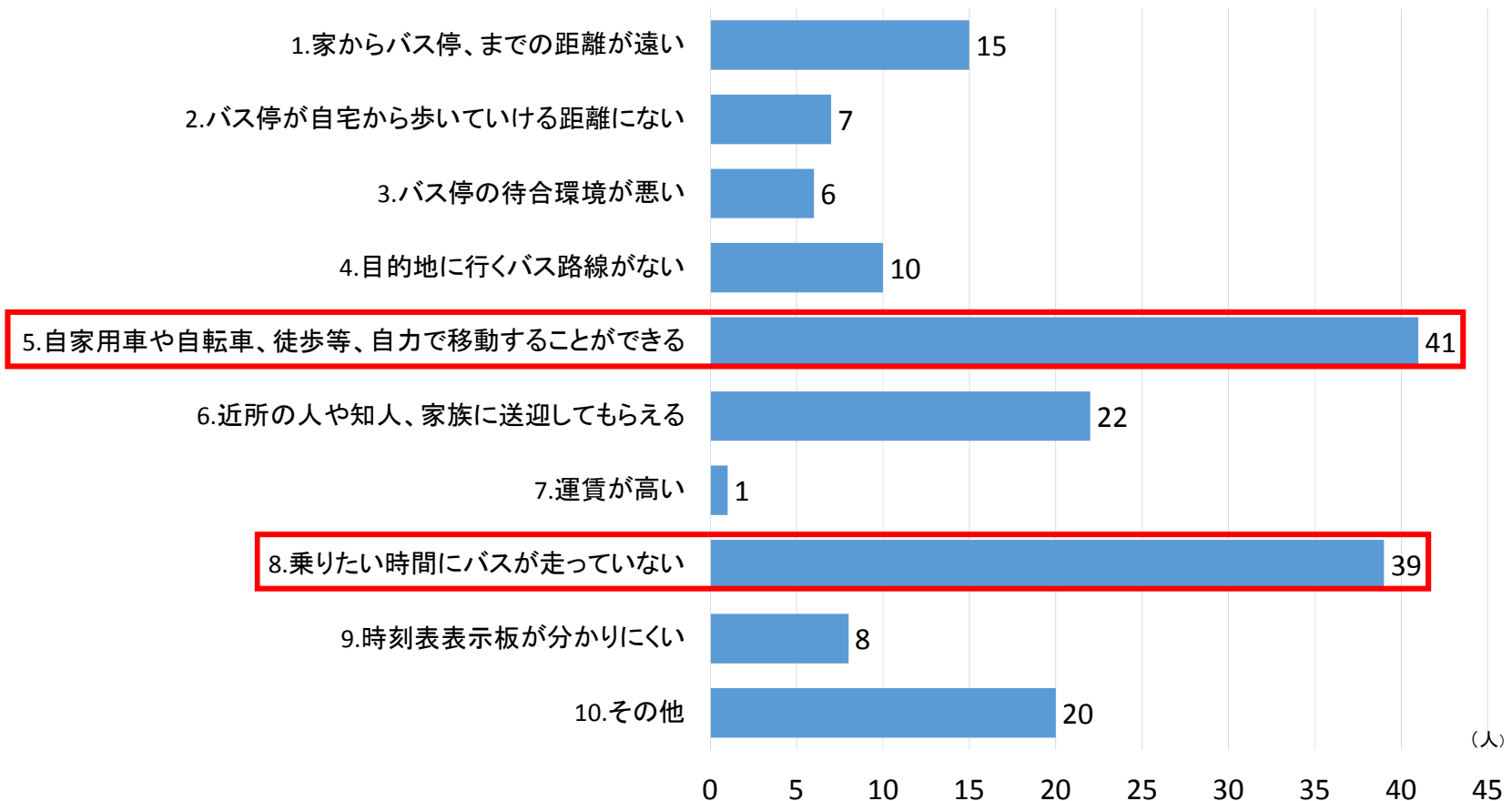
・休日



3.現状のコミュニティバスの利用実態

■コミュニティバスを利用しない理由

コミュニティバスを利用しない理由は、「自家用車や自転車、徒歩等、自力で移動することができる」「乗りたい時間にバスが走っていない」が多くなっています。

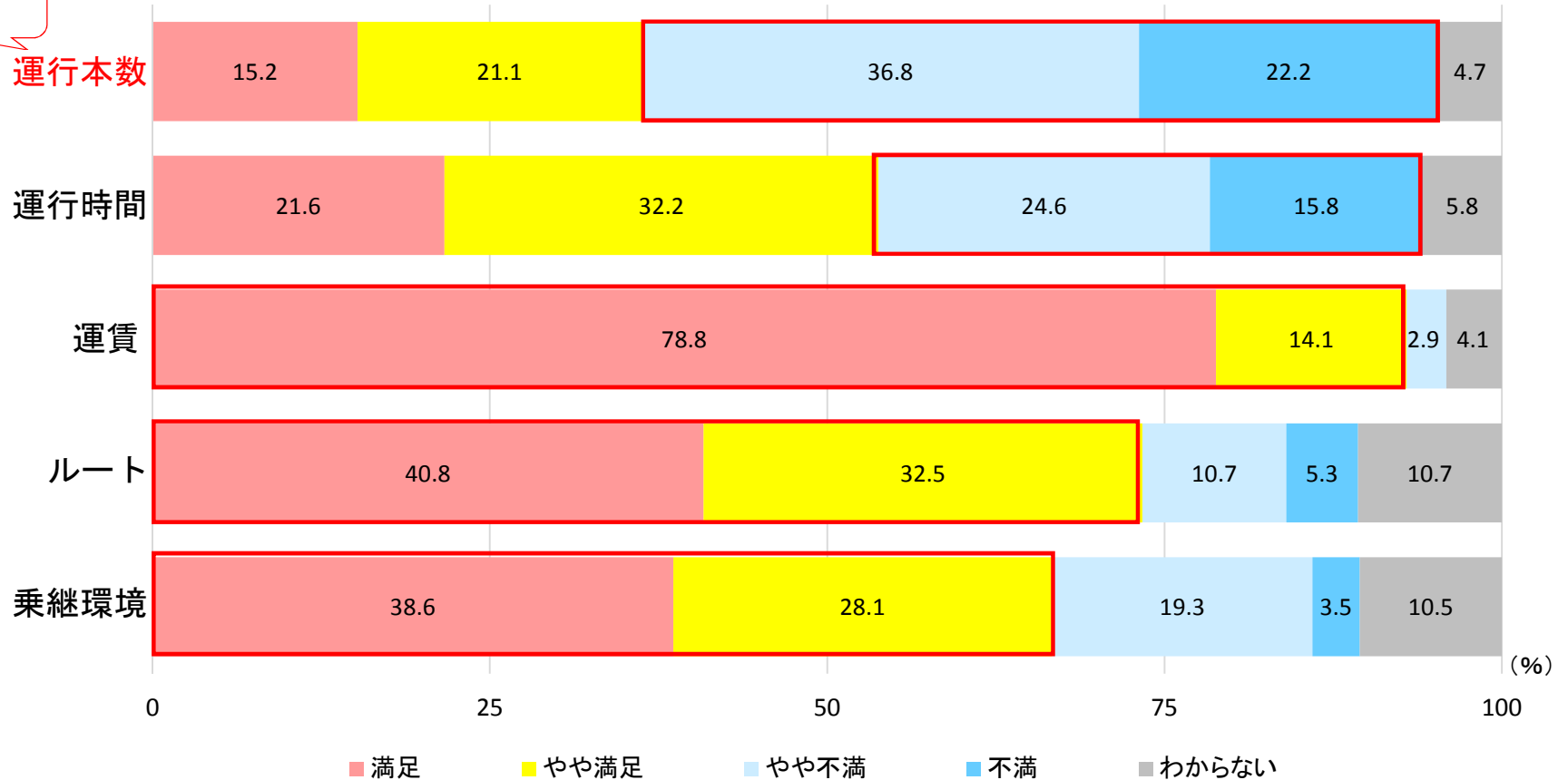


3.現状のコミュニティバスの利用実態

■サービス満足度

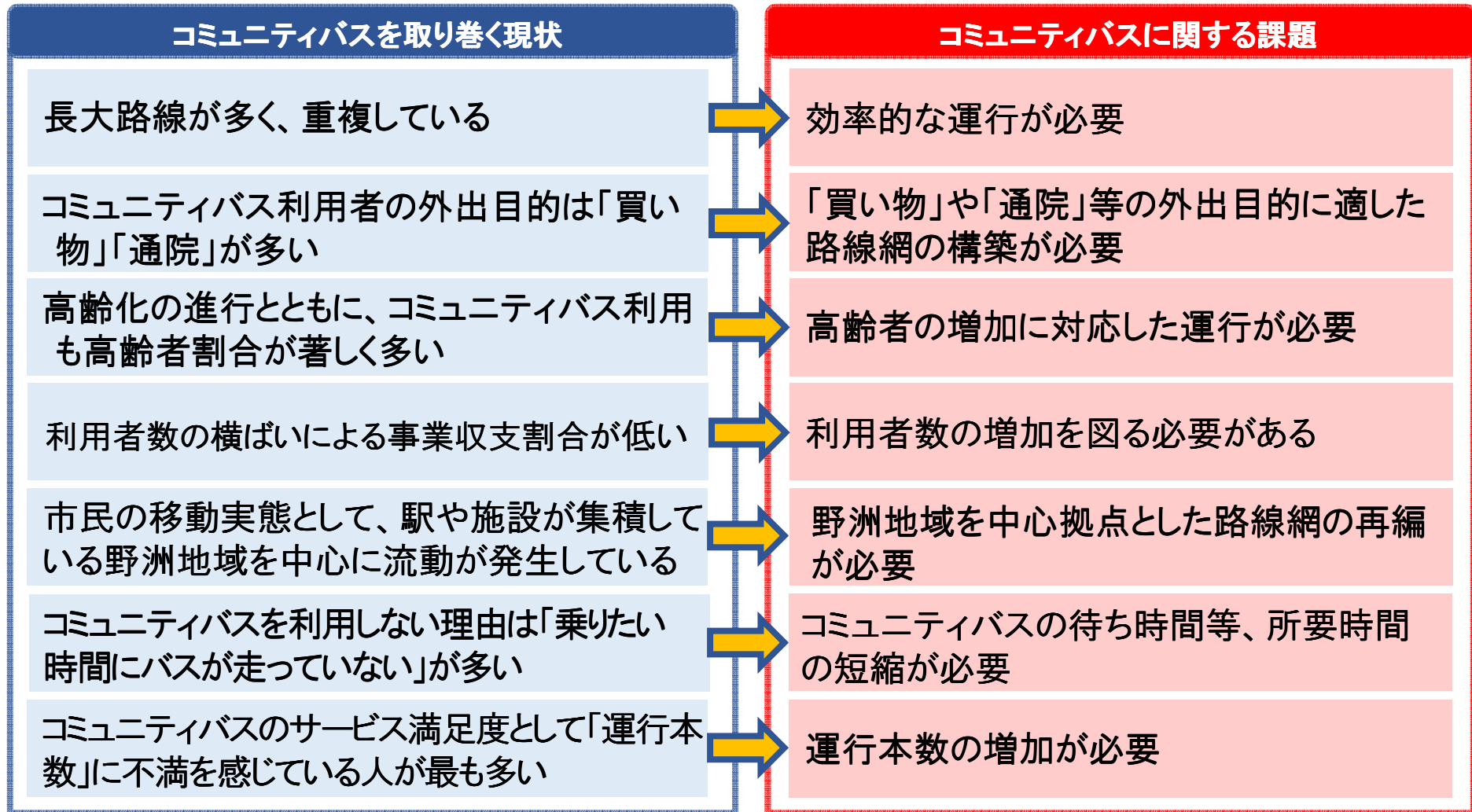
「運賃」や「ルート」、「乗継環境」に関しては大半が満足している一方で、「運行本数」と「運行時間」に関して不満に感じている人が多くなっています。

最も不満傾向
が高い



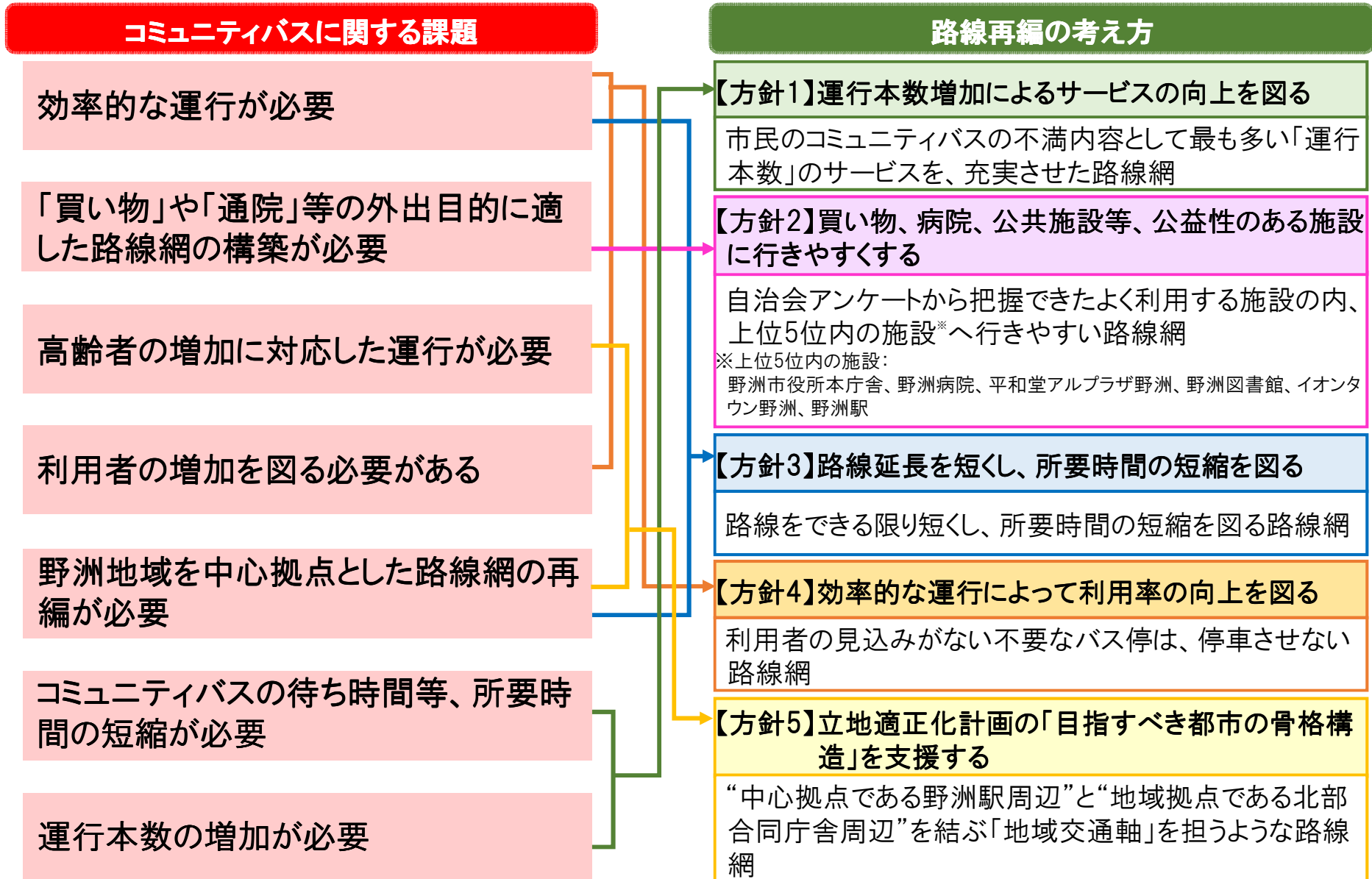
4.コミュニティバスに関する課題

コミュニティバスを取り巻く現状から、コミュニティバスに関する課題が、以下の通り抽出されます。



5.コミュニティバス路線再編の考え方

コミュニティバスに関する課題から路線再編の考え方を以下の5つの方針の通り整理します。



5.コミュニティバス路線再編の考え方

路線再編の考え方と、再編にあたっての前提条件から、再編の方針を以下の通り整理します。

路線再編の考え方

1. 市民の不満度の高い「運行本数」サービスの向上を図る
2. 買い物、病院、公共施設等、公益性のある施設に行きやすくする
3. 路線延長を短くし、所要時間の短縮を図る
4. 効率的な運行によって利用率の向上を図る
5. 立地適正化計画の「目指すべき都市の骨格構造」を支援する

前提条件

- 運行本数の増加、または所要時間の短縮を図る
- 公共交通空白地域、不便地域の解消を図る
- 各路線とも『野洲駅』へのアクセスを可能とする

再編の方針

■重視する考え方

1. 効率化を図るとともに、新規2路線を追加する
2. 路線を短くして所要時間を短縮を図る
3. 運行本数の増加
4. 中心部まで乗継なしで稼働可能

